

環境で地方を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業  
**成果報告会 発表資料**

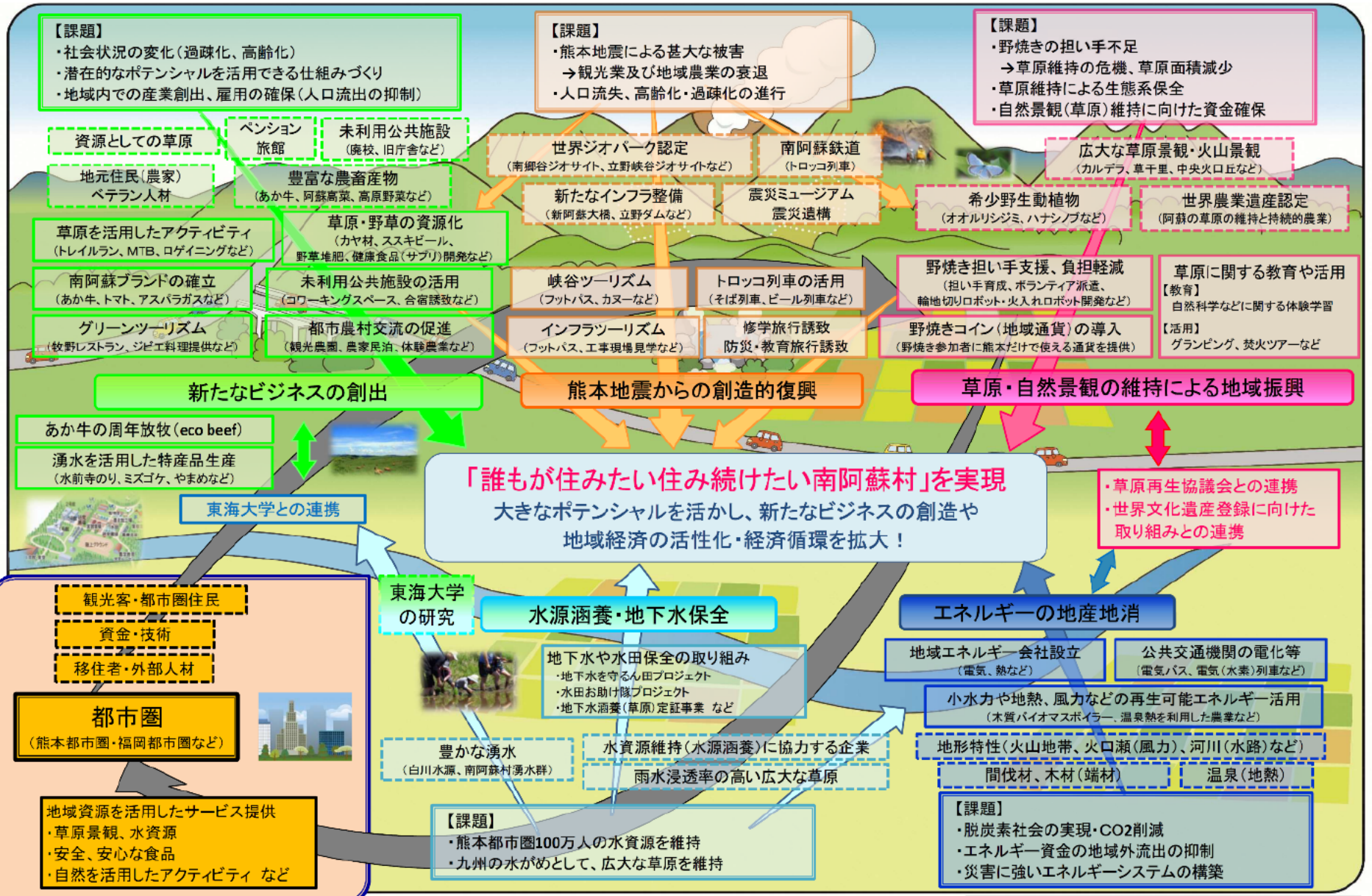
活動団体名：熊本県、南阿蘇村

活動地域：熊本県南阿蘇村

活動におけるテーマ・キャッチコピー

湧水や自然景観を活かした地域活性化

# 地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



# 地域のビジョンを実現するための成果指標

「誰もが住みたい住み続けたい南阿蘇村」を実現

大きなポテンシャルを活かし、新たなビジネスの創造や  
地域経済の活性化・経済循環を拡大！

短期目標

長期目標

環境

野焼き面積

草原面積

再生可能エネルギー発電量

再生可能エネルギー発電量

経済

観光入込客数

宿泊・飲食サービス業事業所数

地域ブランド認定商品数

地域ブランド認定商品数

社会

村外からの移住者

南阿蘇村の人口

環境保全に協力する企業数

環境保全に協力する企業数

# コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	<b>草原再生に向けた草原維持システムの構築</b>	
	事業の概要	<p>社会状況の変化に伴い、草原維持に必要な野焼きの担い手不足が深刻になっているため、草原を資源として活用し、新たな草原維持システムの構築を目指す。具体的には、草原そのものを活用したアクティビティの実施や草原をかや材や野草堆肥として販売するなど、新たなビジネスを創出し、この利益を草原維持に向けた取り組みに充当する。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>草原を活用したアクティビティや草原の資源化は、阿蘇地域でも一部実践されているが、採算性が不明。また、ビジネスモデルとしていく上で、農家（住民）への周知・啓発が不十分。</p>
2	事業の名称	<b>湧水を活用した特産品の開発</b>	
	事業の概要	<p>南阿蘇村の豊富な湧水を活用し、村を代表する特産品の開発を行う。現在、東海大学において「水前寺のり」の試験栽培を村内で実施しており、この成果を踏まえ、量産に向けた体制を構築する。水前寺のりからは、化粧品の原料となるサクランが抽出され、高値で取引されるため、新たなビジネスとなり得る。また、湧水を活用したやまめの養殖なども行い、南阿蘇ブランドとして売り出す。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>水前寺のりは希少価値が高く、量産できればビジネスとして成り立つが、やまめなど他の地域でも生産されている製品について、どのように付加価値をつけていくか。</p>
3	事業の名称	<b>木質バイオマスボイラー導入による脱炭素化事業</b>	
	事業の概要	<p>間伐材や木工所での端材を燃料とした木質バイオマスボイラーを村の温泉施設に導入することにより、温泉の加温を行う。これにより、地域外に流出していたエネルギー代金を地域内で循環させ、エネルギーの地産地消と地域内経済循環の向上、CO2削減を目指す。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>事業の担い手や導入先の目途はついてはいるが、採算性が未定。</p>

# 今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

## 今年度の成果

### (本事業に取り組んで良かったこと)

- 様々な人との意見交換を通じて、今まで気付いていなかった地域資源に気付くことができた。また、地域資源を活用した新たなビジネスの展開など、たくさんのアイデアをいただくことができた。
- 南阿蘇村の振興に真剣に取り組んでもらえる企業・団体が多くあることに、改めて気付くことができた。また、具体的な成果指標を設定することにより、目指すべき方向性や具体的に実施すべき事業が明確になった。

## 今後の意気込み

- 本年度作成した「南阿蘇版マンダラ」の具体化に向け、来年度は分野ごとの検討会の開催などを予定。
- また、地域循環共生圏の構築に向けた事業をモデル的に展開していくため、熊本県及び南阿蘇村において、補助事業を実施することを予定している。

## 地域の活動の上での課題

- 地域のビジョンについて  
マンダラの作成に当たり、どのようにアイデアを抽出すればよいか迷った。
- ステークホルダーの巻き込みについて  
地域循環共生圏のコンセプトを理解してもらい、今回のプラットフォーム事業へ参加してもらうことが大変だった。
- 成果指標について  
何を成果として設定するのかということや、短期目標と長期目標の設定方法などに苦慮した。